

聞き手の人生を反映する文芸

何を聞くか。そして返ってきた答えに対して、次はどういう質問を続けて聞くのか。それによって相手の答えも変わっていきます。だから『聞き書き』でまとめた文章は、一見、話し手の人生の様に見えるかもしれませんが、実は聞き手の人生も反映している文芸形式なのです。

(塩野米松「第一回森の聞き書き甲子園事前研修 講義」より)



仙北市市制 10 周年記念事業

大阪の櫓権職人 山本安平氏(左)と
塩野米松氏(右)
撮影 齋藤亮一氏

塩野米松 聞き書きに学ぶ展

取材手帳や
箕・竹細工等
実際の手仕事
の道具も展示

会期 平成 27 年 6 月 20 日(土)~8 月 23 日(日)

開館時間 午前 9 時~午後 5 時(入館は午後 4 時 30 分まで)
月曜休館・ただし 7 月 20 日は開館

観覧料 大人(高校生以上)300 円 小中学生 150 円 団体割引あり

会場 新潮社記念文学館

〒014-0311 秋田県仙北市角館町田町上丁 2 3

電話 0187(43)3333

主催 仙北市教育委員会

協力 塩野米松氏 齋藤亮一氏

塩野米松 しおの よねまつ

1947 年秋田県角館町(現仙北市)生まれ。作家。
聞き書きの名手で、失われゆく伝統文化・技術の記録に
精力的に取り組んでいる。

○聞き書きの著作

『初代竹内洋岳に聞く』『登頂 竹内洋岳』『百年の梅仕事』
『桜のいのち庭のこころ』『手業に学べ 心/技』『聞き書き
につぼんの漁師』(筑摩書房)、『昭和という時代を生きて』
(岩波書店)、『不揃いの木を組む』(文藝春秋)、『木のい
のち木のこころ〈天・地・人〉』(新潮社)、『屋久島の山守
千年の仕事』(草思社)、『魂の酒』(ポプラ社)など多数。

塩野米松先生による聞き書き講座 7/19(日)午前 10 時~12 時 会場 仙北市総合情報センター 学習室

○定員 30 人(先着順) ○参加無料(事前申込みが必要です) ○申込先 学習資料館(月曜休館) ○電話 0187(43)3333

「塩野米松 聞き書きに学ぶ」展

仙北市角館町出身の作家塩野米松氏は、全国各地の職人から聞き書きを行い、伝統文化や技術の記録を精力的に行っています。また、10年にわたり地元角館中学校の3年生に対し、聞き書きの指導をしてきました。その指導の下、生徒たちは角館に住む職人らを対象にした聞き書きを実際に行い、その内容は10冊の文集『ふるさとに生きる人々』(平成 16～25年度)にまとめられています。

この企画展では、塩野氏の聞き書き作品、取材道具や取材手帳、著作に登場する箕や竹細工といった手仕事の道具、取材写真など多様な「聞き書き」に関する資料を紹介致します。

展示資料

- 塩野米松氏による聞き書きの著作
 - 取材写真パネル(撮影 齋藤亮一氏)
 - 角館中学校 聞き書き授業関連資料
 - 取材手帳
 - カメラ
 - 録音テープ
 - 『手業に学べ 月の巻/技』(小学館/筑摩書房)より
 - ガマ背子(岡山県上斎原村 渡邊さん作)
 - カルイ、メシカゴ(宮崎県日之影町 廣島さん作)
 - 『手業に学べ 天の巻/技』(小学館/筑摩書房)より
 - 箕(鹿児島県金峰町 時吉さん作)
 - 『中国の手業師』(新潮社)より
 - 烏籠(中国 馬福清さん作)
 - 『イギリス職人ばなし』(晶文社)より
 - 鞆(ふいご)(イギリス ジョン・ジョーンズさん作)
- ほか

▼膨大な取材手帳・録音テープを初公開！



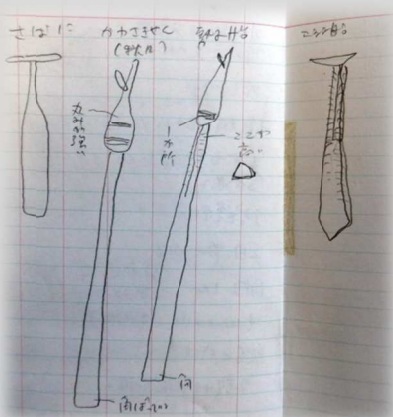
▲取材手帳 (一部)



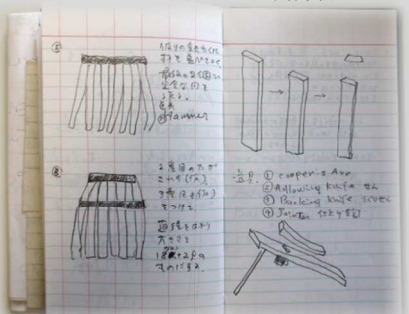
▲録音テープ (一部)



▲主に 120 分のテープを使用



▲▼取材手帳から



相手の人生が 職業を通じて浮かび上がる

—塩野米松

石垣を組む職人さんに石の組み方という「技術」について話を聞いて文章にまとめても、実はなかなか伝わらないものです。もし「技術」だけを記録するのであれば、文章よりも映像(ビデオなど)を使った方がいい。しかし一方で、彼の「生き方」は「技術」の話を通じて聞いて通じないとなかなか見えてきません。これはどういうことかということ、たとえば、船大工は僕たちから見ればひとつの職業だけれども、彼と彼の家族から見れば「船大工という生き方」なんです。だから船をつくる作業工程を聞く中でその人の職業を知り、その人の「船大工という生き方」を浮かび上がらせていくというのが、実は「聞き書き」の最大の仕事なのです。文字をもって、「その人の職業を通じ人生を浮かび上がらせる」という作業を文芸と言います。ここまで『聞き書き』ができればその作品は文芸と言えます。

(塩野米松「第一回森の聞き書き甲子園事前研修 講義」より一部抜粋)

(案内図)

